

## 福岡県公安委員会活動状況

### <定例会の主な議題及び要旨>

令和5年12月21日（木）

#### 【協議事項】

##### 1 警察職員の特別派遣について

（警備部）

警察本部から「原子力関連施設及び重要防護施設の警戒警備に万全を期すため、前者について福井県及び福島県公安委員会から、後者について沖縄県公安委員会から本県公安委員会に対し、警察職員の特別派遣について援助の要求がなされたことから、御審議をお願いする。」旨の説明があった。

公安委員から「原子力関連施設では、具体的にどのような活動を行うのか。」旨の発言があり、警察本部から「出入口ゲート周辺での警戒等である。」「原子力関連施設にはテロ等への警戒に従事するため県機動隊の銃器対策部隊が、重要防護施設には管区機動隊の隊員が派遣される。」旨の説明があった。

公安委員から「年間を通して、全国から警察職員が派遣されるのか。」旨の発言があり、警察本部から「警察庁が調整を行い、全国の多数の都道府県から警察職員が派遣される予定である。」旨の説明後、本件は了承された。

#### 【報告事項】

##### 1 12月定例県議会の結果について

（総務部）

警察本部から「12月定例県議会は、12月1日に開会し、12月20日に閉会した。本会議における代表質問では、民主県政県議団から交通安全への取組について、新政会から交通事故抑止に向けた取組についての質問が行われた。警察委員会では、令和5年度福岡県一般会計補正予算ほか6件についての審査が行われ、いずれも可決されたほか、令和6年福岡県警察運営指針等について報告を行った。」旨の報告があった。

公安委員から「警察委員会において、令和6年福岡県警察運営指針等についての質疑等はなかったのか。」旨の発言があり、警察本部から「質疑等はなかった。」旨の説明があった。

##### 2 第47回広報用写真コンクールにおける警察庁長官賞の受賞について

（総務部）

警察本部から「本コンクールは、警察職員の広報活動に対する関心を高めるとともに、応募作品を警察庁及び都道府県警察の各種広報資料において広く活用し、警察広報の推進を図るものであり、宗像警察署交通課交通指導係の古川勝久巡查部長の作品が警察庁長官賞を受賞した。今後は、各種広報に活用していく。」旨の報告があった。

公安委員から「子供の笑顔が素敵な素晴らしい作品である。」旨の発言があった。

##### 3 指名手配被疑者捜査強化月間の実施結果について

（刑事部）

警察本部から「10月中を準備期間とし、11月1日から同月30日までの間、指名手配被疑者捜査強化月間として指名手配被疑者の追跡捜査等を実施した結果、指名手配被疑者合計15人を検挙した。検挙好事例として、本県重要指名手配犯の立ち回り先捜査による検挙、窃盗被疑者の見当たり捜査による検挙等があった。」旨の報告があった。

公安委員から「強化月間の取組は成果が上がっているのか。」旨の発言があり、警察本部から「本年は、11月末までに40人の指名手配犯を検挙しているが、その37パーセントが強化月間中の検挙である。」旨の説明があった。

公安委員から「好事例として紹介されたもの以外でも、県外に逃亡していた被疑者を検挙した事例はあったのか。」旨の発言があり、警察本部から「検挙した15人のうち、9人が県外に逃亡していた被疑者である。」旨の説明があった。

公安委員から「強化月間中に行った宿泊施設等に対する捜査で検挙した事例はあったのか。」旨の発言があり、警察本部から「簡易宿泊施設やネットカフェにおいて検挙している。」旨の説明があった。

公安委員から「引き続き、徹底した捜査をお願いする。」旨の発言があった。

#### 4 令和6年特殊詐欺抑止目標と今後の対策について

##### (刑事部・生活安全部)

警察本部から「11月末現在の特殊詐欺被害の現状を踏まえ、令和6年の抑止目標として被害額3.9億円以下と設定した。令和5年は、予防面では固定電話通信事業者との協定締結による電話機対策等を推進し、検挙面では電子マネー売買業者らによる組織犯罪処罰法違反事件等を検挙した。今後は、予防対策として電話機対策、県民運動による被害阻止活動及び被害に遭わないための広報啓発を推進する。また、検挙対策として被害の抑止に資する分析と検挙活動、犯罪者グループ等の実態解明・摘発及び犯罪インフラ対策を推進する。」旨の報告があった。

公安委員から「認知件数及び被害額はここ数年で最も多く、大変厳しい状況であろうと思う。被害額は10億円を超えているが、被害の最高額、最低額はいくらか。」旨の発言があり、警察本部から「被害額には、数千円のものから8,000万円を超えるものまで開きがある。」旨の説明があった。

公安委員から「検挙した事件では、だまし取られた現金等を押収しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「今年検挙した事件の中には、数百万円を押収した事件もある。」旨の説明があった。

公安委員から「被害に遭われた高齢者の方は、家族等に相談していないケースが多いのか。」旨の発言があり、警察本部から「家族等に相談していないケースが多く、反対に家族等に相談することで被害阻止につながった事例も多い。犯人側の手口も、家族等に相談する暇を与えないなど巧妙化している。」「被害者の半数は詐欺の手口を知っており、自分がだまされるとは思わなかったと話している。」旨の説明があった。

公安委員から「先程報告のあった広報用写真から自転車乗車時のヘルメット着用の重要性が伝わってくるように、高齢者に何かあったら家族に相談しよう、家族が見守っているとってもらえるような広報啓発を行うことも効果があるのではないか。」旨の発言があり、警察本部から「これから年末年始の帰省等で家族が集まることから、家族でニセ電話詐欺の対策を考える機会にしてもらえるよう広報を予定している。」旨の説明があった。

公安委員から「施設入所中の高齢者が被害に遭うケースはあるのか。」旨の発言があり、警察本部から「自宅の固定電話への連絡が多いことから、一人暮らしの高齢者が被害に遭うケースの方が多し。」旨の説明があった。

公安委員から「令和6年は目標達成に向けて各種取組を推進してもらいたい。」旨の発言があった。